

鳥取市工業用水道事業の紹介

○事業の主旨

鳥取市工業用水道事業は、平成16年11月1日に鳥取市と鳥取県東部9市町村による合併に伴い、旧青谷町が運営していた青谷町工業用水道事業の全部を鳥取市が引継いだものである。

旧青谷町では長期の出稼ぎや若年層の都市部への就職等により労働力の流出が顕著化し深刻な社会問題となるなか、若者の定住や地場産業の育成、地域の振興発展につなげるため企業誘致に力を入れた。そして、昭和42年に染色業1社が誘致され操業を開始したが、地下水の汲み上げにより周辺地域の井戸が枯渇するようになった。

また、この時期に低開発地域、農林開発地域に対する工場導入地域の指定を受け、工業再配置による第2の企業進出が決定していった。

町は、このような情勢を受け、昭和49年9月に地下水汲み上げによる地盤沈下対策と誘致した企業2社へ給水のため、工業用水道の供用を開始したものである。

○事業の経緯

本市が引き継いだ青谷町工業用水道事業は、JR青谷駅の南側に位置する工業団地に誘致した企業への工業用水の供給を目的とし、昭和49年9月、勝部川工業用水道（施設能力：2,300m³/日）として通商産業省（現経済産業省）に届け出を行い、企業2社に2,100m³/日の供給を開始したのが始まりである。

その後、昭和60年に待望の企業進出を受けたことで昭和61年12月に施設の新築移転を行い、併せて名称も勝部川工業用水道から青谷町工業用水道（施設能力：5,800m³/日）へ改めた。給水先のニーズに応えるべく浄水設備の整備を行い、企業3社に対し5,400m³/日の清浄な工業用水の安定供給をようやく開始することができた。

しかし、バブル崩壊後の平成6年8月に供給先の誘致企業1社が倒産したことから、契約給水量が減少し、事業の経営は一転して厳しいものとなった。

このような状況の中、当時の町方針においては、地場産業の育成と既存企業の躍進により人口流出を防ぎ、

企業誘致に更なる努力を傾注することとして新規需要を求めた結果、新規企業の誘致に成功した。しかし、ベンチャー企業ゆえに工業用水の新規需要先には至らず、平成6年以降から現在まで供給先企業は2社のみとなっている。

また、契約水量については、平成6年8月の企業倒産により、それまでの5,400m³/日から3,400m³/日と大きく減量した。平成8年8月に500m³/日の増量変更してわずかに向上したが、依然と続く日本経済の低迷により企業は経営の見直しを迫られ、平成16年6月に200m³/日、平成18年7月には500m³/日の減量契約に至り、現在では5,800m³/日の施設能力に対し、契約水量は55.2%の3,200m³/日にとどまっている。

今後もこのような経済情勢のため水需要の伸びが期待できない状況にあり、厳しい経営環境が予想される場所である。地域産業経済の健全な発展に寄与することが工業用水道の使命と考え、給水先の企業2社に対し清浄な工業用水を安定供給するのはもちろんのこと、一層の事業運営の効率化を図りながら健全経営に努めていくこととしている。

○ユーザーの概要

(平成19年3月末現在)

業種	給水件数	契約水量 (m ³ /日)
繊維	1	200
染色	2	3,000
計	2	3,200

○施設の概要

本市工業用水道の水源は、勝部川水系勝部川（二級河川）の表流水を水源とし、河川中央部の取水塔から水中ポンプにより取水し、φ300mmの導水管で約160m離れた浄水場に導水している。

場内では、取水した表流水を濁質処理装置（連続移動床砂ろ過機5基、処理能力6,000m³/日）により処理した後、場内の配水池に貯水して自然流下により各企業に配水している。

なお、配水管の総延長は約1,600m（φ300mm～φ

150mm) である。

○鳥取市水道局ホームページアドレス
<http://www.water.tottori.tottori.jp/>

○給水区域図

